

2017年10月30日（月）

報道関係各位

タイムズレスキュー株式会社

自動車の通信データを活用した故障リスク検知サービスで 総務省の「IoT セキュリティ基盤」のフィールド実証実験に参画

タイムズレスキュー株式会社（本社：東京都江東区、社長：武井茂雄、以下「タイムズレスキュー」）は、総務省が実施する「IoT セキュリティ基盤を活用した安心安全な社会の実現に向けた実証実験」に、2017年12月より「カーモビリティ分野」において参画いたします。

本実証実験は、NTTコミュニケーションズ株式会社（本社：東京都千代田区、社長：庄司 哲也、以下「NTT Com」）および株式会社エヌ・ティ・ティ・ピー・シーコミュニケーションズ（本社：東京都港区、社長：田中 基夫、以下「NTTPC」）が総務省から受託し行うものです。

NTT Com および NTTPC が検討する「IoT（Internet of Things）セキュリティ基盤」を活用し、IoT デバイスから接続する際の認証や暗号化、IoT データの管理、分析、問題が生じた際の原因の特定と対策について、複数の分野で実証・検討をおこない、今後の「IoT セキュリティ基盤」の普及に向けた課題の整理や提言を行うことを目的としています。

タイムズレスキューは、本実証実験における「カーモビリティ分野」に参画いたします。専用通信端末を取りつけた車両から通信されるデータをもとに、利用者に車両故障や事故のリスクを事前に通知することで、走行中のトラブル抑止が期待できるサービスにおいて、「IoT セキュリティ基盤」の有用性を検証します。

実施にあたっては、首都圏を中心に企業や個人の参加者を募集し、参加者には配布する専用通信端末を車両の OBD II ※コネクタに設置していただきます。車両からリアルタイムで通信される情報をもとに、ドライブをサポートする Web アプリと車両データを活用したロードサービスを利用いただきます。

Web アプリには、「故障の予兆通知」「クルマの状態」「走行の記録」「安全運転評価」などの機能があり、安全で楽しいドライブをサポートします。

ロードサービスでは、車両故障や事故が発生した際に、オペレータが対象車両の所在地と車両情報（バッテリー電圧、冷却水温など）をもとにトラブル状況を判断し、スタッフを手配します。

タイムズレスキューは、本実証実験に参画することで、自動車から得られる情報を活用してドライバーの皆様のニーズに対応したサービスを提供できるよう取り組んでまいります。

※OBD II：自動車に搭載される故障診断システム

【「カーモビリティ分野」の構成イメージ】

